

講習会を受講した譲渡希望者が、実際に子猫と対面します。定期的に（月に1～2回）開催している自治体と、譲渡に適した猫がいる場合に随時開催する、としている自治体があります。

開催の流れ

① 室内開催

環境の変化に反応しやすい子猫たちのために、室内の比較的静かな場所で行うほうがいい



でしょう。まったく体験したことのない環境（屋外や、人が多く集まる場所など）では、普段の行動があらわれず、実際の性格が見えてこない（普段は活発だが、ケージの隅でかたまっただま、など）ことが多いからです。また、そうした場所では、ケージから出すとパニックになり脱走してしまう可能性もあります。

② 子猫の紹介



普段世話をしているスタッフが、子猫の性格や状態などをできるだけ詳しく丁寧に紹介しましょう。希望者が猫を決める際の参考になり、また、この時にマッチングの重要性についても、希望者に伝えられるようにするといいいでしょう（くわしくは、マッチングのページ（P42.43）を参照してください）。

③ 子猫の扱い方の指導

希望者に対しては、子猫の扱い方（さわやかた、抱き方など）をスタッフが指導します。特に、お子さんに対しては、「大声を出さない、会場を走り回らない、急に子猫に触らない」など、細かく指導しましょう。



④ 誓約書の記入

新しい飼い主が決まったら、誓約書の記入となります。これは終生飼養や、避妊去勢手術の実施を約束するものです。その後、飼養期間中の健康状態や、ワクチン接種の証明書などを渡します。このとき、医療費（ワクチン代など）を一部負担してもらおう目的で、手数料（料金）をとっている自治体もあります。



⑤ 記念撮影

最後に、子猫と飼い主さんの新しい家族写真を撮影します。記録として保存するほか、HPやセンター内の掲示板などに紹介している自治体もあります。



⑥ 譲渡家庭へ

希望者には子猫を入れるキャリーバックなどをあらかじめ持参してもらいます。また、子猫を迎えた初日の対処方法なども改めて確認し、帰宅してもらいます。

